



本の森通信

令和5年6月号
山田中図書館発行

雨ときどき読書はいかがですか

さわやかな新緑の季節が終わり、だんだん蒸し暑くなってきました。6月は雨が多くなりますが、そんな日は、絶好の読書日和です。時間がなくてなかなか読めなかったなが〜い本にもチャレンジしてみてください。



図書館便利メモ

「本を借りようかと思うんだけど、どれがおもしろいのか分からなくて…結局借りるのをやめちゃった。」そんな人はいませんか。たくさんの中の中から、自分にあった本を見つけるのは意外と難しいですね。山田中図書館では本選びのサポートとして、「映像化作品」、「イチオシ恋愛小説」、読売中高生新聞「君に贈る本大賞」、歴代の「本屋大賞」、香川県教育委員会推薦図書「香川の子どもたちに贈る100冊」などを別置で展示しています。名作から人気の作家まで幅広いラインナップですので、気に入った本がきっと見つかるはずですよ！



～君に贈る本大賞から～

「あと少し、もう少し」 瀬尾まいこ / 作(新潮社)

主人公は、駅伝のために集まった6人の男子中学生。優等生、元いじめられっ子、お調子者、不良…とさまざまなメンバーたちです。走ることを通じてコンプレックスや葛藤と向き合う彼らの姿が、それぞれの視点で書かれています。相手を思う気持ちや挑戦する勇気が湧いてくる、青春がつまった一冊です。

～香川の子どもたちに贈る100冊から～

「世界とキレル」 佐藤まどか / 著(小学館)

山奥のサマースクールで、ジャンクフードやパソコン、スマホのない生活を送ることになった舞。自然と触れ合いながら規律ある共同生活をする中で、舞のかたくなな心が自然とほどこけていきます。



～映画化作品コーナーから～

「そして、バトンは渡された」 瀬尾まいこ / 作(文藝春秋)

父親が三人、家族の形態は17年間で7回も変わった主人公の優子。血のつながらない親の間でバトンがつながれ、リレーされて育てられましたが、そこにはいつも愛情があふれていました。



★第69回青少年読書感想文全国コンクール課題図書



課題図書が決まりました。課題図書とは、本の専門家の先生方が、新しく出版された本の中から学年に合わせて読んでほしい本を選んだものです。ぜひ読んでみましょう。



夏休みに書く読書感想文にいいねえ！



「スクラッチ」 歌代 翔 / 作 (あかね書房)

コロナ禍で「総体」が中止になったバレー部の鈴音。「市都展」の審査が中止となった美術部の千咲。引退まであと少ししかないのに…と苛立ちを隠せません。

様々な活動が制限される中、不安や憤りを感じながらも、自分たちらしく前に進もうとする中学生のたくましい姿が描かれています。

「アッパステージ」 ダイアナ・ハーモン・アシャー / 作

武富 博子 / 訳(評論社)

特別になんかなりたくない、目立ちたくない、人目につかないようにみんなの中に溶け込みたいと願うシャイな女の子シーラ。でも、『学校ミュージカルに出たい！』と密かに思っています。自分の殻を破り、舞台上上がる時のドキドキ、やり切った後の達成感が伝わってくる本です。



「人がつくった川・荒川」 長谷川 敦 / 著(旬報社)

埼玉県と東京都を流れる荒川ですが、大雨が降ると、頻りに田畑や家を水浸しにして人々を困らせる「荒れる川」だったので、「荒川」と名付けられたと言われています。江戸時代から現在まで、川の流れが2回も大きく変わりました。なぜ荒川の流れは変化したのか、荒川の歴史と、流域の暮らしの移り変わりを過去、現在、未来と読み解いていきます。

「雨の日のプラス1冊貸出」を行っています。

図書室では「雨の日のプラス1冊貸出」を行っています。雨の日は、普段よりも1冊多く本を借りることができるチャンスです！その日は図書室の入り口やカウンターに告知のボードを掲げますので確認してくださいね。

